

常願寺川流域の災害史と立山カルデラの砂防事業の重要性を 伝える語り部育成事業

立山砂防女性サロンの会
会長 尾畑納子

1. はじめに

富山県のほぼ中央部を流れる常願寺川上流の立山カルデラ内に堆積する土砂は、現在およそ2億 m^3 がいまだ残っているといわれ、今後も土石流となって流出することが予想される。このため、100年以上も前から土砂災害を防止するために奥山で続けられている立山砂防工事であるが、現場は地形的に険しいことから一般の人は近付くことが出来ず、この防災工事について県民にあまり知られることがない。そこで、立山砂防女性サロンの会では、市民の目線で防災事業の大切さや災害に対する日頃からの備えの大切さについて語り伝える、地域の女性による防災教育ボランティア活動を行っており、本年で活動も13年目を迎える。これまでの主な活動では、立山砂防工事現場を中心とした現地見学会を実施し、「百聞は一見にしかず」の精神で草の根的な防災教育を主に行っており、現在の300名は超えるまでに発展してきた。

また、近年では、こうした歴史的防災施設や優れた工事技術が注目され、世界遺産登録の候補に挙げられるようになってきている。立山山麓一帯には、日本初の氷河が存在、ラムサール条約の登録地となった池や湿地帯の他、白岩砂防堰堤の重要文化財指定等優れた自然や歴史的防災遺産も多く、近年は国内ばかりでなく海外からも注目され、訪れる観光客も多くなってきた。これらの動向を踏まえ、本会では、防災教育を観光、環境、災害などの複合的な視点から発信することの重要性に着目し、新たな活動を展開したいと考えている。

そこで、平成25年度活動として、生活の視点から先人の知恵や歴史を学び、地域の人々や立山を訪れる観光客に立山の防災事情を解説したり、近年世界遺産登録の候補として防災施設があげられていることから、観光と防災の双方の視点から説明できる「語り部」を育成して、地域の防災のための市民活動に取り組むこととした。

2. 活動指針と内容

主な活動は、本会が最も重要と考えている現地研修、さらに会員が研鑽を積むために行う学習会と会員が中心となって啓蒙活動を行う一般市民向けの公開講座の開催などである。主な内容は以下のとおりである。

①現地での実地研修を通して理解を深める。

立山カルデラ内の砂防工事見学、近隣砂防および災害現場の見学、海外砂防・災害現地での研修

②常願寺川流域の災害や自然に関する勉強会

常願寺川の歴史、立山砂防工事の現状、立山の自然など外部講師による学習会を開催

③災害関連ボランティア団体との交流

本宮砂防堰堤を語る会への参加、斜面防災対策協会講演会への参加

④一般向けの災害に関する公開講座開催

東日本大震災訪問の報告会開催

⑤語り部育成のための基礎的な参考資料作成、HP 作成

3. 活動の成果

①-1 立山カルデラ内での砂防工事見学の実施 (2013. 10. 1)

立山砂防事務所所員の協力で案内をしていただき、ガールスカウト富山支部の女性 20 名が入山し、事務所、会員の説明でカルデラ内の砂防工事を見学した。初めて見る光景に防災工事の大切さを実感してもらうことができた。

①-2 海外研修 (ベトナム、2013. 9. 10-17)

ハノイの旧市街地を流れる紅川は昔から洪水が多発していたため、堤防が築かれ、旧市街地を洪水から守っている。その堤防は陶磁器で有名なバチャン村の細工壁面となって、美しく通行人の目を引く装飾的な堤防であった。(写真 2)

研修に先立ち、三重県の水資源機構の職員を招きベトナムの河川事情について事前研修も行った。



写真 1 立山の崩れを見る



写真 2 紅川の美しい堤防



写真 3 現地の女性たちとの交流

①-3 近隣砂防・災害地見学 (2013. 10. 21-22)

長野県小谷村、稗田山の崩壊地、蒲原沢など見学した後、小谷村の村長と懇談し、近県で起きている災害とその対策について話を聞いた。翌日は松本方面から神通川上流の砂防施設見学も実施し、見聞を広めることができた。

写真 4 災害の説明を聞く (右) ⇒



①—4 東日本大震災被災地南三陸町での災害地研修と仮設住宅の女性たちとの交流
(2014. 3. 8-9)

昨年に続き本年も南三陸町の防災庁舎をはじめ災害の跡地を訪ね、復興の状況について知ることができた。被災され歌津地区の仮設住宅に住んでいる女性たちと交流を行った。災害時の様子、現在の生活などを聞き、災害に備えること、昔からの言い伝えの大切さなど体験談をお聞きすることができ、語り部としての私たちの活動に重要なヒントを得られた。



写真5 仮設住宅の女性との交流

②会員のための学習会実施 (2013. 7. 5～26 まで 計4回)

語り部活動を実施するに当たり、会員の知識を醸成するため、今年度は、「世界遺産登録に向けて、立山砂防への思いを深める」というテーマで学習会を実施した。合計4回行い、延べ85名の会員が知識を深めた。

以下は4回の学習テーマである。

- ・世界遺産とはどのようなことなのか。
- ・世界遺産登録の街—平泉について
- ・立山砂防の現状と砂防事業、災害対策
- ・立山の自然を知る—ナチュラリストの視点



写真6 学習会の様子 (立山砂防の現状について聞く)



学習会のチラシ

③災害関連ボランティア団体との交流

- ・最近の砂防事業の取組み: 全国治水砂防協会理事長 岡本正男氏による講演会 (2013. 6. 8)
- ・国際砂防フォーラム 2013 での報告 (2013. 9. 29)

富山県が主催の国際砂防フォーラムにおいて立山砂防女性サロンの会の活動報告を行った。

- ・本宮砂防堰堤を語る会: 日本一の貯砂量を誇る本宮砂防堰堤の重要文化財指定に向けて活動している会の活動報告、女性サロンの会からも活動講演を行い、災害に関する意見交換を行った。

・斜面防災対策技術協会富山支部による災害防止技術講演会：海外への技術協力、地震と災害、立山ジオパーク構想など幅広い視点から立山周辺の概要について学び、意見交換が行われた。

④会員・一般市民向けの広報講演会を開催
(2013. 6. 8)

本会が主催となり、東日本大震災被災地で語り部のボランティア活動を行っている工藤 望氏を招いて、被災地の現状、災害の様子など話を聞き、語り部としての役割についても意見交換した。また、会員による被災地報告なども行い、語り部の大切さを理解してもらった。



写真7 太田国土交通大臣に説明する会員

⑤語り部活動のための資料作成

立山砂防女性サロンの会独自の語り部活動を行うために情報を収集したり、語り部として案内ボランティアを行うための基礎資料を作成している。

基礎資料としては、立山砂防女性サロンの会が行っている語り部活動を一般に広報するための資料、さらに語り部のためのガイドブックなど分冊作成の予定であり、今年度はまず市民向けの広報資料を作成した。

4. 成果と課題

本事業の成果は、これまでは立山カルデラ内での工事の現状を見学し、災害や防災工事に関する勉強をすることに留まっていた。本事業を推進していく中で、災害地へ進んで出かけて研修したり、より多くの人に積極的に災害の怖さや防災に対する準備などの必要性を伝えることの大切さを実感することができるようになった。今後は、より質の高い語り部となれるように会員の研鑽が必要である。

今後世界遺産登録に向けた活動を推進していく中で、常願寺川流域の住民に過去の災害に合った時の体験談の聞き書き、災害の跡地などの現地案内役など会員が積極的に活動できるようなマニュアル作成していくことが今後の課題である。

謝辞：

本事業を推進するに当たり、立山砂防事務所所長 三上幸三氏、立山砂防女性サロンの会アドバイザー 吉友嘉久子先生にはご助言、ご支援を賜りましたこと心より感謝申し上げます。また、本事業は第18回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業の助成を受けて行われたものであり、ここに御礼申し上げます。